

## 1 活動名 「政策評価研修」

### 2 研修の目的

#### (1) 本市における課題

限られた財政の中で、多様化する社会ニーズに対応するためには、戦略的かつ有機的に行政サービスを提供していく必要があるが、それに対応した行政評価も求められている。時代に即した行政評価の手法を学ぶことで、質の高い行政サービスの提供を実現させていく必要がある。

#### (2) 研修の必要性

本市の掲げる成果指標は、行政評価との連動性を意識したものとは言いがたいケースが見受けられる。一方、議員においても、行政評価としての視点を深め、各種会議の場においてチェック機能を発揮していかななくてはならない立場にある。こうした課題を解決するためには、専門家を招いて、行政評価に関する体系的な知識を身につける必要がある。

#### (3) 研修項目（テーマ）

政策評価におけるプログラム評価とロジックモデルの有用性について。

### 3 講師選定理由

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の北大路信郷教授は、行政評価のあり方を長年にわたりご研究され、総務省における政策評価有識者会議の座長も務められてきた。卓越した専門知識と豊富なご経験から学ばせていただくことが多いと感じ、ご講義いただくこととなった。

### 4 研修内容

(1) 日 時 平成 30 年 2 月 16 日(金) 13:30～15:30

(2) 会 場 松本市役所東庁舎 3 階第一委員会室

(3) 参加者 13 名

- ・ 会派出席者 5 名（宮下正夫、小林弘明、小林あや、田口輝子、吉村幸代）
- ・ 市理事者 8 名（博物館館長、文化財課課長補佐、人権男女共生課課長、人権男女共生課課長補佐、子ども育成課課長、政策課係長、政策課主任、職員課課長補佐）

### 5 実施結果

ロジックモデルの基本構造や、政策評価におけるプログラム評価の有効性など基本的な事項の理解から、アウトカム及びアウトプットの背景、捉え方、区別の方法、留意点などを整理することができた。また、事業の目的と回帰、組織内に向けたフィードバックという観点からも、政策評価の効果と意義の重要性について、あらためて認識し直すことができた。

### 6 政務活動費

(1) 使途項目 研究研修費

(2) 支出額 20,000 円（講師謝礼）

—以上—